

大阪府感染症情報センターでは国立感染症研究所が配信している梅毒の国内発生状況分析情報(<https://www.niid.go.jp/niid/ja/syphilis-m-3/syphilis-idwrs/7816-syphilis-data.html>)を参考に、大阪府内における梅毒症例の動向について四半期毎の推移をまとめたものを 2022 年第 1 四半期より四半期毎に配信させていただいております

大阪府内で感染症発生動向調査によって届け出られた梅毒の概要

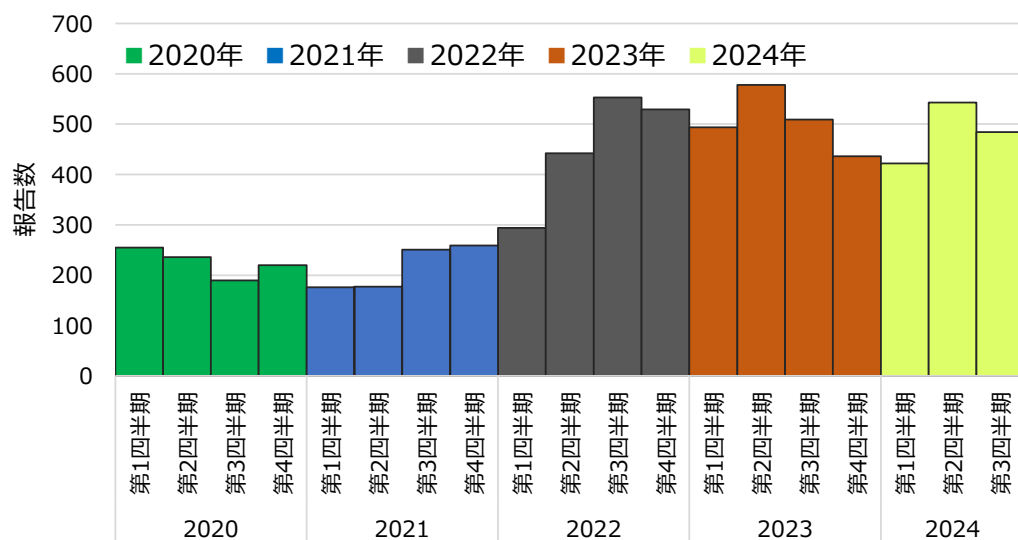
2024 年 10 月 15 日現在

2023 年第 3 四半期から 2024 年第 3 四半期は、以下の週に該当する

- ・ 2023 年第 3 四半期：第 27 週~39 週（2023 年 7 月 3 日~2023 年 10 月 1 日）
- ・ 2023 年第 4 四半期：第 40 週~52 週（2023 年 10 月 2 日~2023 年 12 月 31 日）
- ・ 2024 年第 1 四半期：第 1 週~13 週（2024 年 1 月 1 日~2024 年 3 月 31 日）
- ・ 2024 年第 2 四半期：第 14 週~26 週（2024 年 4 月 1 日~2024 年 6 月 30 日）
- ・ 2024 年第 3 四半期：第 27 週~39 週（2024 年 7 月 1 日~2024 年 9 月 29 日）

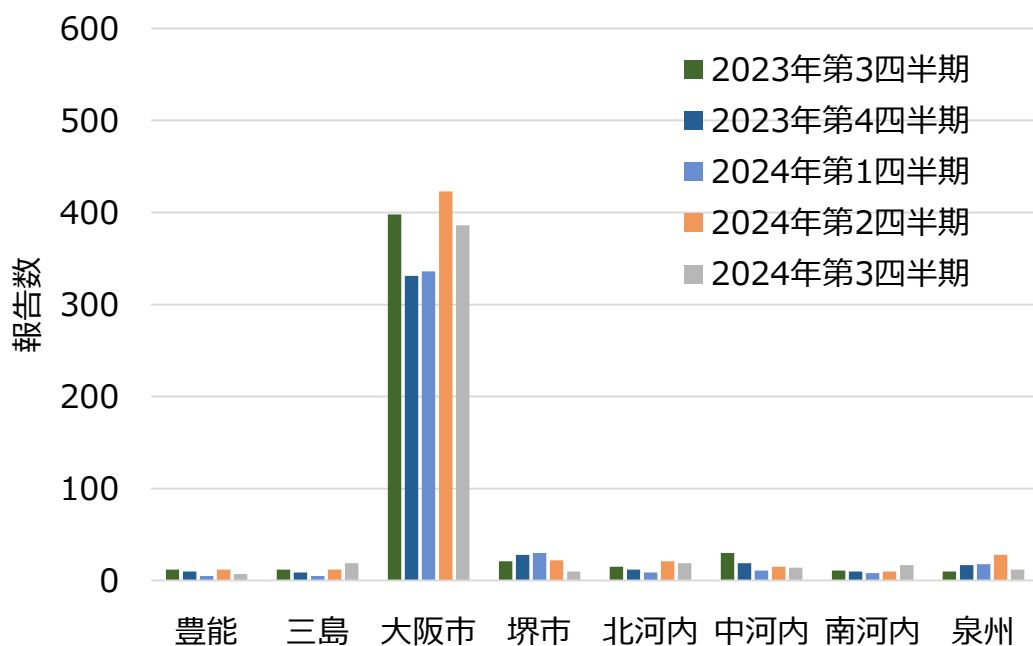
注）2024 年第 39 週(2024 年 9 月 29 日)までに診断されていても 2024 年 10 月 15 日以降に届け出のあった報告は含まない。

図 1 大阪府内における梅毒報告数



- 2024 年第 3 四半期は報告数が第 2 四半期から減少した。現時点で 2024 年第 3 四半期は 484 例で、2024 年第 2 四半期と比較して報告数が 11%減少した。昨年の同一四半期の報告数からは 5%減少している。（遅れて報告される場合があることから、特に直近の報告数は今後変動する可能性がある。）

図2 ブロック別報告数



- 四半期毎の報告数は全ての期間において大阪市医療圏で最も多い。2024年第2四半期と比較し2024年第3四半期は三島医療圏と南河内医療圏を除く6ブロックで報告数が減少した。

【参考】感染症発生動向調査ブロック分け (<http://www.iph.pref.osaka.jp/infection/block1.html>)

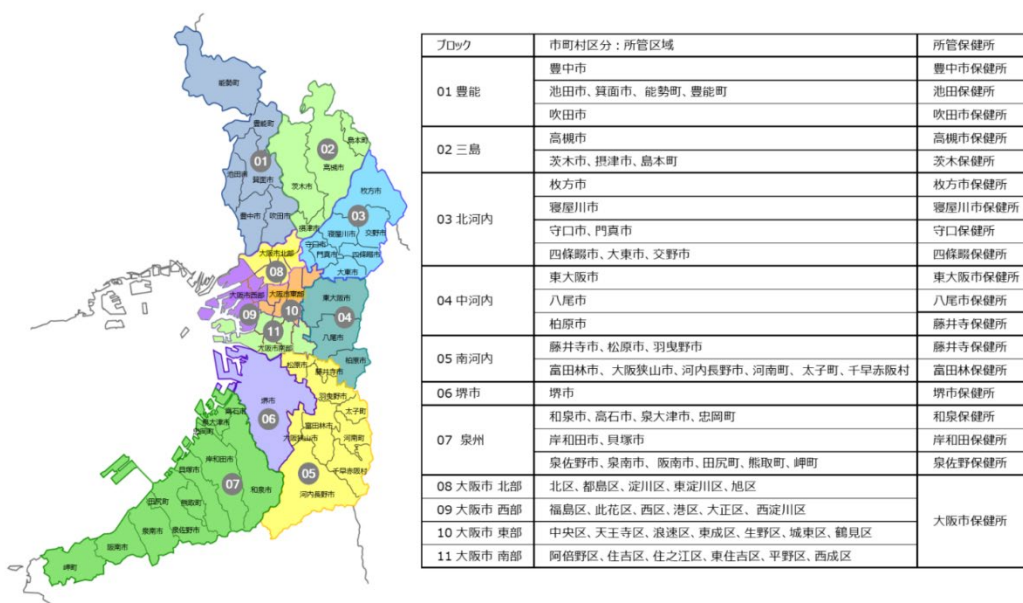
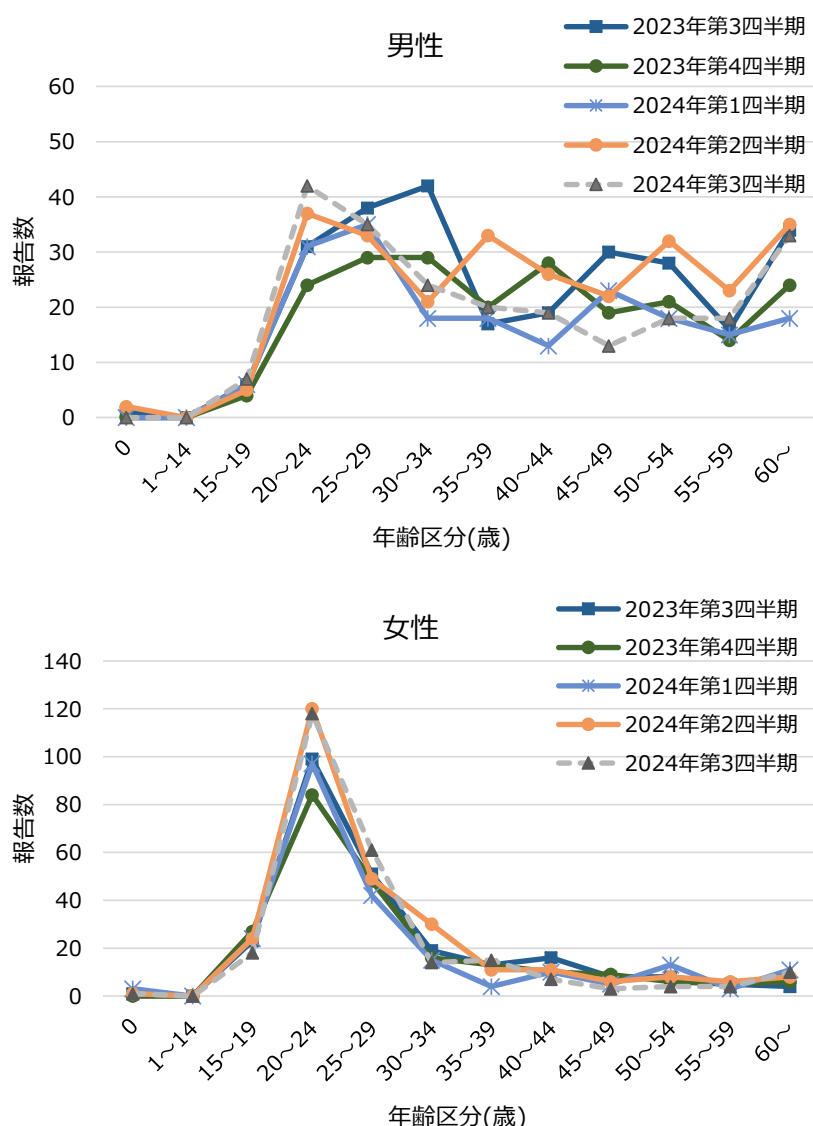
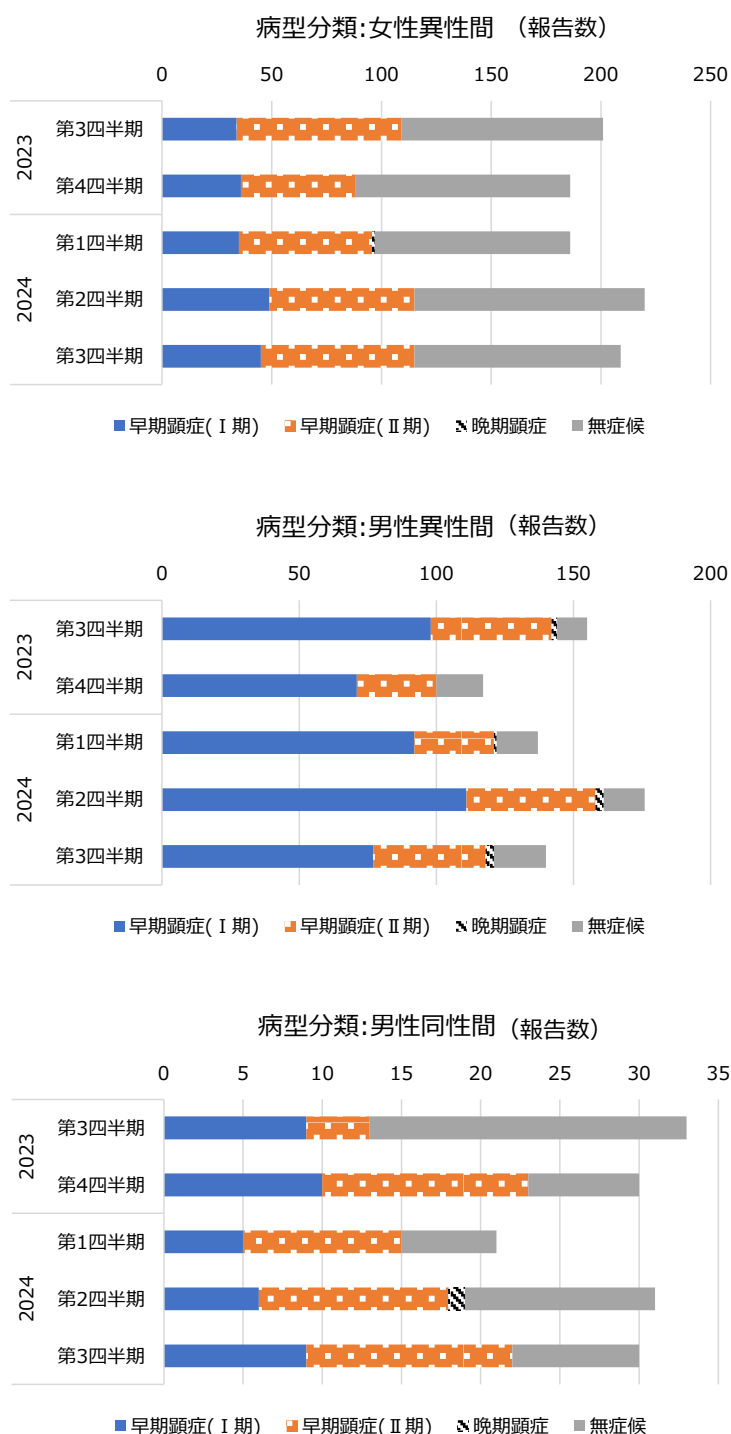


図3 性別年齢分布



- 2024年第3四半期の男性の報告数は229例で、第2四半期と比較し15%減少したが、15~19歳、20~24歳、25~29歳、30~34歳の年齢区分では、第2四半期よりも増加していた。最も報告数の多い年齢区分は20~24歳で、次いで25~29歳が多かった。20歳代の割合は男性全体の34%を占めた。
- 2024年第3四半期の女性の報告数は255例で第2四半期に比較し7%減少した。引き続き20~24歳で報告数が最も多く、次いで25~29歳が多かった。20歳代の割合は女性全体の70%を占めた。また10歳代後半の割合は女性全体の7%を占めている。
- 全期間を通じ20~40歳代の男性および20歳代の女性で特に報告数が多いことから、後述する先天梅毒の発生を防ぐ観点から、妊娠の可能性のある者のうち感染リスクがある者や、妊娠中、または、妊娠の可能性のある者のパートナーに対する、必要に応じた積極的な検査実施と啓発が重要であると考えられた。
- 男女ともに20歳代の報告数が多いことから、10歳代の若者が性感染症に関する知識を得る予防啓発の機会を増やすことが、重要な対策の一つになると考えられた。

図4 性的接触歴別、病型の内訳

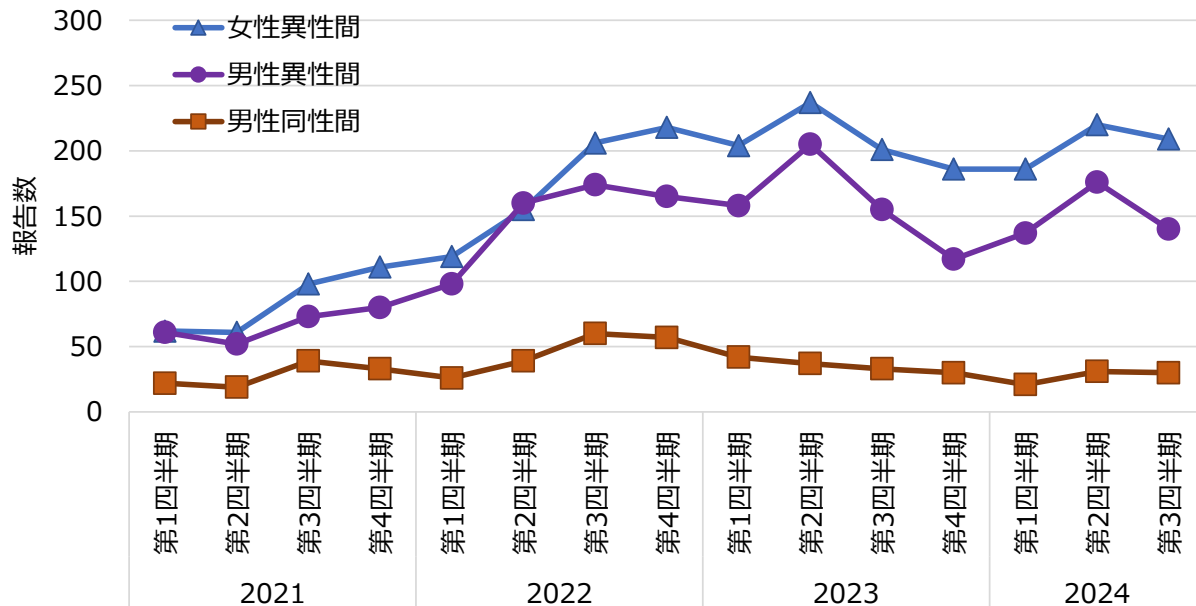


- 2024年第3四半期は無症候での届出の占める割合が女性異性間で45%（94例）、男性異性間で14%（19例）、男性同性間で27%（8例）と、2024年第2四半期と比較し、それぞれ3%減少、5%増加、12%減少した。
- 早期顕症（I期）の届出の占める割合が女性異性間で22%（45例）、男性異性間で55%（77例）、男性同性間で30%（9例）と、2024年第2四半期と比較しそれぞれ増減なし、8%減少、11%増加した。

- 早期顕症(Ⅱ期)の届出の占める割合が女性異性間で 33% (70 例)、男性異性間で 29% (41 例)、男性同性間で 43% (13 例) と、2024 年第 2 四半期と比較しそれぞれ 3%増加、2%増加、4%増加した。
- 全期間を通じて女性異性間は無症候での届出の割合が高く、一方で男性異性間は無症候での届出の割合が低い (2021 年以降の届出に占める無症候の割合；女性異性間 47%、男性異性間 11%)。女性は自発的検査あるいは医師の検査勧奨や妊婦健診など、検診目的の検査で感染が判明している可能性が考えられ、男性は、梅毒の症状を自認した患者の受診によつての診断が大部分を占め、自発的な検診による無症候性梅毒の検出・診断が少なくなっているものと考えられた。
- 男性同性間とは男性異性間と比較し無症候で届出される割合が高いことから (2021 年以降の届出に占める無症候の割合：男性同性間 33%)、受検意識の高さや検診目的の検査による判明が多い可能性がある。
- 梅毒の流行を抑えるには、予防啓発はもちろんのことだが、それに加えて自発的な梅毒検査受検率のさらなる向上が必要である。特に感染の可能性の高い、異性間性的接触機会が多い者に対し、働きながらも受検しやすい梅毒検査環境を提供するなど、積極的な受検を促し、無症候の感染者の診断と治療による介入を行うことが重要であると考えられた。

注) 男性同性間・異性間両方に記載のある症例は重複して含めている

図 5 性的接触歴別報告数推移



- 2024 年第 3 四半期と 2024 年第 2 四半期を比較すると、女性の異性間性的接触歴のある報告数は 5% 減少、男性の異性間性的接触歴のある報告数は 20%減少、同性間性的接触歴のある報告例は 3%減少した。

注) 男性同性間・異性間両方に記載のある症例は重複して含めている

表1 直近6か月以内の性別性風俗産業の従事歴および利用歴

男性		2023年第3四半期	2023年第4四半期	2024年第1四半期	2024年第2四半期	2024年第3四半期
従事歴	あり	7 2%	8 4%	8 4%	9 3%	10 4%
	なし	155 66%	111 52%	119 61%	163 61%	125 55%
	不明	78 22%	71 33%	44 23%	63 23%	67 29%
	空欄	22 10%	22 10%	24 12%	34 13%	27 12%
	計	262	212	195	269	229
男性		2023年第3四半期	2023年第4四半期	2024年第1四半期	2024年第2四半期	2024年第3四半期
利用歴	あり	88 34%	63 30%	80 41%	93 35%	85 37%
	なし	80 36%	52 25%	52 27%	78 29%	56 24%
	不明	74 22%	74 35%	40 21%	64 24%	62 27%
	空欄	20 8%	23 11%	23 12%	34 13%	26 11%
	計	262	212	195	269	229

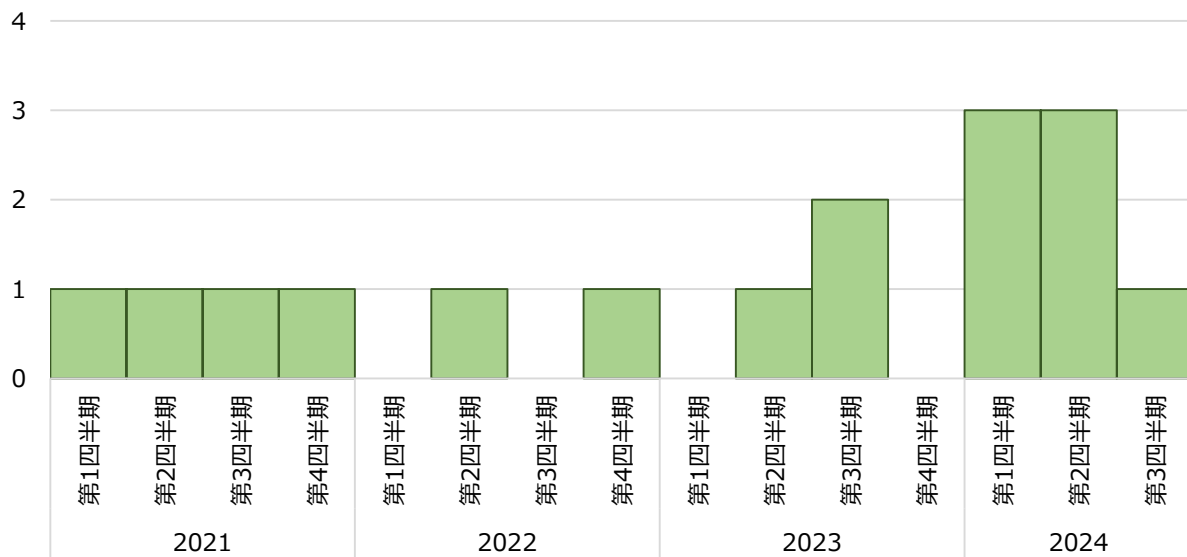
女性		2023年第3四半期	2023年第4四半期	2024年第1四半期	2024年第2四半期	2024年第3四半期
従事歴	あり	138 58%	114 51%	118 52%	115 42%	128 50%
	なし	38 16%	46 21%	46 20%	61 22%	50 20%
	不明	56 19%	53 24%	46 20%	74 27%	60 24%
	空欄	15 7%	11 5%	17 7%	24 9%	17 7%
	計	247	224	227	274	255
女性		2023年第3四半期	2023年第4四半期	2024年第1四半期	2024年第2四半期	2024年第3四半期
利用歴	あり	2 0%	4 2%	1 0%	3 1%	2 1%
	なし	87 37%	70 31%	101 44%	94 34%	111 44%
	不明	142 57%	135 60%	106 47%	147 54%	121 47%
	空欄	16 7%	15 7%	19 8%	30 11%	21 8%
	計	247	224	227	274	255

* 空欄：あり、なし、不明いずれにも記載がない場合

割合(%)は小数点第一位を四捨五入して記載

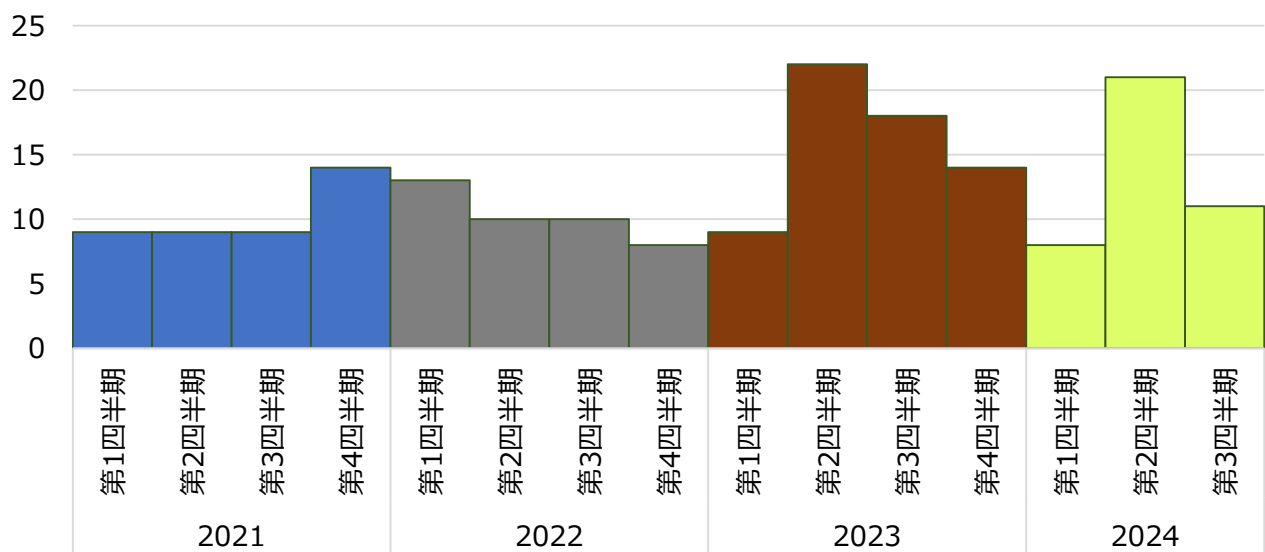
- 男性のうち性風俗産業利用歴のある報告例は2023年第3四半期以降30%～41%で推移している。
- 女性のうち性風俗産業従事歴のある報告例は2023年第3四半期以降42～58%で推移している。
- 男性のうち性風俗産業利用歴が不明の報告例が20～30%台、女性のうち性風俗産業従事歴が不明の報告例が10～20%台で推移している。梅毒に対し有効な対策を講ずるうえで、精度の高い疫学情報が不可欠であり、届出時の不明記載の割合を少しでも下げていくことが重要であると考える。

図6 先天梅毒の報告状況



- 2024年第3四半期に病型が先天梅毒として報告された届出例は1例で、2024年の累計は7例となっている。2023年の先天梅毒届出の累計3例をすでに超えている。

図7 妊娠例の報告状況



- 2024年第3四半期に報告された梅毒届出例のうち、妊娠例は11例であり、2024年の累計は40例となっている。

参考

大阪府感染症情報センター

大阪府内で報告された梅毒届出症例における妊娠例と先天梅毒の報告状況

<http://www.iph.pref.osaka.jp/zensu/20220623152435.html>